

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010 年度

課題番号：20520565

研究課題名（和文） 古代日本列島における漢字文化受容の地域的特性の研究

研究課題名（英文） Study for acceptance of Chinese characters in Ancient Japan

研究代表者

佐藤 信 (SATO MAKOTO)

東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

研究者番号：80132744

研究成果の概要（和文）：木簡や金石文などの出土文字資料を具体的に検討し、日本列島各地域における漢字文化受容の実態とその特性の一端を解明した。

研究成果の概要（英文）： I studied how the ancient Japanese people accepted the Chinese characters.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本古代史・木簡・出土文字資料・漢字文化・文書

1. 研究開始当初の背景

木簡をはじめとした出土文字資料の新発見によって、日本列島をふくむ古代東アジアにおける漢字文化の受容・展開についての史資料は格段と増加しており、それによって新しい展望が開けるようになってきたと考える。

中国の漢字文化が朝鮮半島や日本列島でどのように受容され展開したかについて、木簡や金石文など出土文字資料の発見によって、地域的な特性に注目しながら明らかにできる条件が整いつつあるといえよう。

2. 研究の目的

研究課題は、「古代日本列島における漢字文化受容の地域的特性の研究」であり、この研究によって、中国の漢字文化が朝鮮半島においてどのように受容され変貌したのか、そしてその漢字文化がさらに日本列島各地に伝わる際にどのように受容され変貌したのか、という点に見通しをつけたい。そして、東アジアの漢字文化が情報伝達手段としてどのように地域や国家の間をつないでたのかについて、各地域間の交流と国家間の国際関係などに、基礎的で実証的な見通しをもたらしたい。

3. 研究の方法

古代の東アジアにおいて、中国に起源をもつ漢字文化が朝鮮半島を経由して日本列島にどのように受容され展開したかについて、朝鮮半島における漢字文化の受容・変容のあり方と比較しつつ、新たに発見された木簡や金石文などの出土文字資料を検討し、列島各地域における漢字文化受容の実態とその特性を解明する。

4. 研究成果

2008年度は、①各地の漢字文化関係の出土文字資料などの資料収集に努めるとともに、②古代中国・朝鮮の漢字文化の把握、そして③これまでの研究整理を進めることに重点を置いた。①では、福島県・広島県・静岡県その他で出土文字資料の実物調査を行い、②では、韓国国立中央博物館・台湾中央研究院などで出土文字資料を調査し研究交流を行った。③では、学会などでの発表・講演において、これまでの研究を整理する内容の報告をとりまとめ、研究の進展を図った。研究成果の一部は、学会などでの発表・講演のほかに、愛媛大学法文学部『資料学の方法を探る』誌や栃木県立文書館『栃木県立文書館研究紀要』誌に論文として公表した。出土文字資料など新出の史料を用いることにより、古代の国家・貴族だけでなく、地方豪族や地方社会による漢字文化受容の具体相が明らかになってきつつあることは、列島古代の多元的な文化展開を展望する上で有意義と考える。

2009年度は、①各地の漢字文化関係の出土文字資料などの資料収集を進め、とくに金石文の資料収集を行うとともに、②古代中国・朝鮮における漢字文化展開の把握、そして③研究成果のとりまとめに向けて整理を進めることに重点を置いた。①では、滋賀県・奈良県・兵庫県・鹿児島県その他で出土文字資料の実物調査を行い、金石文研究会を開いて日本古代の金石文についての調査・検討を進め資料集成に努めた。②では、ソウルで開催された韓国東北アジア歴史財団主催の国際学術研究会に参加して報告を行い、中国西域において簡牘(木簡)出土遺跡などの調査を行い、研究交流を行ったほか、東京で開催された国際学術座談会で報告した。③では、学会などでの発表・講演において、これまでの研究を整理する内容の報告を行い、研究の進展を図った。研究成果の一部は、学会などでの発表・講演のほかに、『法政史学』『歴史地理教育』や『しまねの古代文化』誌などに論文として公表した。地方における漢字文化受容の具体相が明らかになりつつあることは、列島古代の多元的な文化展開を展望する上で

有意義と考える。

2010年度は、①各地の漢字文化関係の出土文字資料などの資料収集を進めるとともに、②金石文研究会を開催して日本古代の金石文の調査・研究を展開して資料集成を行い、また③中国辺境出土の簡牘(木簡)など古代中国・朝鮮における漢字文化展開の把握を進め、そして④研究成果をとりまとめて報告書を刊行することに重点を置いた。①では、島根県その他で出土文字資料の実物調査を行い、②では金石文研究会を開催して日本古代金石文に関する調査・研究を進め、釈文検討の上にデータをしゅうせいした。③では、韓国東北アジア歴史財団主催の国際学術研究会に参加して報告を行ったほか、台湾中央研究院において中国西域出土の簡牘(木簡)の実物調査を行い、研究交流を行った。④では、学会などでの発表・講演において、これまでの研究を整理する内容の報告を行い、さらなる研究の進展を図った。研究成果の一部は、学会などでの発表・講演のほかに、編著書『史跡で読む日本の歴史4 奈良の都と地方社会』・著書『木簡から読み解く平城京』や『武蔵野』誌などの論文として公表した。地方における漢字文化受容の具体相が明らかになることは、列島古代の多元的な文化展開を展望する上で有意義と考える。最後に、調査・収集した金石文についてのデータをふくめ、三年にわたる研究成果をとりまとめて発信するための報告書の作成に当たった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

- ①佐藤信、「日本古代の交通と出土木簡」、『資料学の方法を探る』(愛媛大学法文学部)、査読無、8号、2009.3、60-67頁
- ②佐藤信、「下野薬師寺の古代史」、『栃木県立文書館研究紀要』、査読無、13号、2009.3、1-12頁
- ③佐藤信「陵墓と日本古代史」、歴史学研究、査読有、857号、2009.9、3-7、63頁
- ④佐藤信「日本における漢字文化の受容と展開」、法政史学、査読無、72号、2009.9、1-21頁
- ⑤佐藤信「古代日本の漢字文化受容」、歴史地理教育、査読無、754号、2010.1、70-77頁
- ⑥佐藤信「出雲国造のクニと令制国出雲」、しまねの古代文化、査読無、17号、2010.3、62-70頁
- ⑦佐藤信「国府とその周辺」佐藤信編『史跡で読む日本の歴史4 奈良の都と地方社会』吉川弘文館、2010.4
- ⑧佐藤信「武蔵国の七世紀」『武蔵野』、査読無、84巻1号、2010.5、5-13頁
- ⑨佐藤信「官営鉦山と大仏造立」木簡学会編『木簡から古代がみえる』(岩波新書)、

- 岩波書店、査読無、2010.6、107-114頁
- ⑩佐藤信「都と地方のつながり」田辺征夫・佐藤信編『古代の都2 平城京の時代』吉川弘文館、査読無、2010.7、262-283頁
- ⑪佐藤信「古代史からみた鞠智城」笹山晴生監修『古代山城鞠智城を考える』山川出版社、査読無、2010.11、55-82頁
- ⑫佐藤信「飛鳥・藤原の遺跡と『日本書紀』」木下正史・佐藤信編『古代の都1 飛鳥から藤原京へ』吉川弘文館、査読無、2010.12、255-273頁
- ⑬佐藤信「平城京と大宰府」『都府楼』、査読無、42号、2010.12、4-16頁

〔学会発表〕(計40件)

- ①佐藤信「史跡の保存・活用と埋蔵文化財保護行政」、平成20年度埋蔵文化財担当職員等講習会(文化庁・茨城県教委)、水戸市民会館、2008.9.3
- ②佐藤信「幻の宮齋宮と古代都城」、齋宮シンポジウムin横浜、横浜市歴史博物館、2008.9.23
- ③佐藤信「国分寺造営と在地社会」、シンポジウム「国分寺の創建を読むII—組織・技術論—」(国士館大学)、国士館大学、2008.10.5
- ④佐藤信「日本古代の交通と出土木簡」、愛媛大学「資料学」研究会公開シンポジウム、愛媛大学法文学部、2008.10.11
- ⑤佐藤信「陵墓と日本古代史」、歴史学研究会日本古代史部会「陵墓」問題シンポジウム、専修大学神田キャンパス、2008.10.18
- ⑥佐藤信「古代下野の地方官衙と社会」、しもつけ風土記の丘資料館特別展記念講演会、しもつけ風土記の丘資料館、2008.10.19
- ⑦佐藤信「下野薬師寺の古代史」、平成20年度栃木県立文書館歴史講演会、栃木県庁講堂、2008.11.4
- ⑧佐藤信「地方官衙と古代豪族—三軒屋遺跡と檜前部君氏を中心に—」、伊勢崎市三軒屋遺跡講演会、伊勢崎市緋の郷円形交流館、2008.11.22
- ⑨佐藤信「古代相模史と古代国家」、神奈川県教育委員会平成20年度考古学ゼミナール、神奈川県埋蔵文化財センター、2009.1.20
- ⑩佐藤信「世界遺産からみた城下町金沢」、城下町金沢の文化遺産群と文化的景観セミナー、2009.2.14
- ⑪佐藤信「出土文字資料からみた古代の中央と地方」、市民の古代研究会・関東、文京区シビックセンター、2009.3.22
- ⑫佐藤信「古代の相模と律令国家」、かながわ考古学同好会例会講演、神奈川県埋蔵文化財センター、2009.3.25
- ⑬佐藤信「奈良時代の興福寺と阿修羅像」、東京国立博物館「国宝阿修羅展」記念講演会、東京国立博物館平成館大講堂、2009.5.9
- ⑭佐藤信「漢字文化の受容と古代の日本列島」、法政大学史学会、法政大学、2009.6.6
- ⑮佐藤信「古代官衙と交通」、群馬県埋蔵文化財調査事業団平成21年度調査遺跡発表会シンポジウム、前橋テルサホール、2009.6.7

- ⑯佐藤信「日本における漢字文化の受容と展開」、韓国東北アジア歴史財団主宰国際学術会議「古代文字資料から見た東アジアの文化交流と疎通」、韓国国立古宮博物館、2009.6.10
- ⑰佐藤信「奈良の都平城京の実像」、国分寺市本多公民館歴史講演会、国分寺市本多公民館、2009.6.19
- ⑱佐藤信「古代史からみた鞠智城」、熊本県・熊本県教育委員会主催東京シンポジウム「古代山城鞠智城を考える」、砂防会館、2009.7.25
- ⑲佐藤信「古代日本における漢字文化の受容と展開」、北陸史学会、金沢大学、2009.9.3
- ⑳佐藤信「房総の出土文字資料」、市立市川考古博物館特別展記念講演会、市立市川歴史博物館、2009.10.3
- 21佐藤信「出雲国造のクニと令制国出雲」、第8回神在月古代文化シンポジウム、大社文化プレイスうらら館(出雲市)、2009.10.18
- 22佐藤信「律令国家と地方官衙—弥勒寺官衙遺跡群の歴史的背景—」第四回史跡弥勒寺官衙遺跡群講演会、関市(岐阜県)、関市総合福祉会館わかくさプラザ、2009.11.3
- 23佐藤信「あたらしい日本列島の古代史」青雲学園(長崎県)東大教授講演会、青雲学園、2010.11.16
- 24佐藤信「日本古代文書木簡の機能と廃棄」中国出土簡牘史料の生態学的研究学術座談会、三菱財団人文科学研究助成「中国出土簡牘史料の生態学的研究」(研究代表者・靱山明埼玉大学教授)、東京大学山上学会館、2010.3.22
- 25佐藤信「古代寺院と地域社会」平成21年度笛吹市歴史フォーラム「古代寺院は地域になにをもたらしたか」、笛吹市教育委員会、めぐり情報ステーションホール、2010.3.28
- 26佐藤信「大仏造立と列島の古代史」京都橘大学歴史学科学術講演会、京都橘大学、2010.6.7
- 27佐藤信「奈良の大仏造立と列島の古代史」国分寺市本多公民館歴史講演会、2010.6.18
- 28佐藤信「史跡の整備・活用と歴史学」全国史跡整備市町村協議会役員会講演会、ホテルボール麹町、2010.7.20
- 29佐藤信「古代史の中の青木遺跡」出雲古代史研究会シンポジウム「出雲青木遺跡をめぐる諸問題」、島根県埋蔵文化財センター、2010.7.31
- 30佐藤信「古代鞠智城と東アジア」熊本県・熊本県教育委員会主催東京シンポジウム「古代山城鞠智城を考えるII—東アジアの中の古代鞠智城」、砂防会館、2010.8.8
- 31佐藤信「大宰府・多賀城と古代の都」東北歴史博物館特別展「多賀城・大宰府と古代の都」記念講演会、2010.9.5
- 32佐藤信「古代西国の都大宰府」福岡市埋蔵文化財センター22年度講座「都市への胎動」、2010.9.18
- 33佐藤信「古代史研究と奈良文化財研究所」奈良文化財研究所特別講演会(東京会場)「古代はいま 奈文研最前線」、有楽

研究者番号：

町朝日ホール、2010.9.25

34佐藤信「世界遺産と日本史学」東京大学文学部・北見市教育委員会主催、第14回東京大学文学部北見公開講座、北見芸術文化ホール、2010.10.8

35佐藤信「日本古代の出土資料研究の課題」愛媛大学「資料学」研究会2010年度国際学術シンポジウム「東アジアの交通遺跡と出土資料」、愛媛大学法文学部、2010.10.10

36佐藤信「大宰府の機能と律令国家」九州歴史資料館開館記念特別展記念講演会、九州国立博物館、2010.10.30

37佐藤信「東山道武蔵路と古代東国」国分寺市、国指定史跡記念講演会「東山道武蔵路の時代—日本の古代道路とその保存・活用—」国分寺市いずみホール、2010.11.3

38佐藤信「多胡碑と古代東国の歴史」NPO法人日本民俗経済学会主宰、2010年度多胡郡設立1300年記念イベント「古代の人々からのメッセージ」講演、ヤマダ電機LAB I 1高崎イベントスペース、2010.11.14

39佐藤信「古代都市平城京の実像」白山史学会第48回大会公開講演、東洋大学、2010.11.27

40佐藤信「多賀城の機能と歴史的意義」聖徳大学言語文化研究所連続学術講演会「平城京時代の遠の朝廷と東国」、聖徳大学、2010.12.1

〔図書〕（計6件）

①佐藤信『木簡から読み解く平城京』NHK出版、2010.10、175頁

②佐藤信編著『史跡で読む日本の歴史4 奈良の都と地方社会』吉川弘文館、2010.4、284頁

③沖森卓也・佐藤信・平沢竜介・矢嶋泉著『歌経標式—影印と注釈』おうふう、2008.12

④田辺征夫・佐藤信編著『古代の都2 平城京の時代』吉川弘文館、2010.7、288頁

⑤木下正史・佐藤信編著『古代の都1 飛鳥から藤原京へ』吉川弘文館、2010.12、322頁

⑥佐藤信『古代日本列島における漢字文化受容の地域的特性の研究』（2008～2010年度科学研究費補助金研究成果報告書）佐藤信、2011.3、164頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 信 (SATO MAKOTO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：80132744

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()